

57	Traité Élémentaire de Physique Expérimentale et Appliquée et de Météorologie		
	A F -86	1857, 1866	A.Ganot著
フランスの物理学教師ガノーが著した物理学の教科書。明治初年の教科書である『物理楷梯』や『物理全志』は、本書の英訳版を参考にしている。			

- ◆ 本書名の日本語訳は「実験応用物理学・気象学入門講義」である。日本ではアトキンソン(Atkinson イギリス人)による英訳版も広く用いられた。さらにドイツ語・ロシア語・スペイン語・オランダ語訳もあり、当時の物理教育に本書が果たした役割の大きさがうかがえる。ガノー(1804-1887)は本書より初等的な物理教科書“Cours de Physique”も著している。日本ではこの教科書を「小ガノー」と呼び、本書を「大ガノー」と呼んで区別している。「小ガノー」には、アメリカのペック(Peck)による(かなり意識的な)英訳版がある(G420-9)。

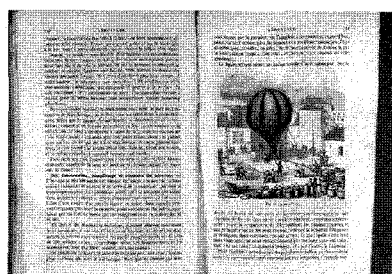
フランス語で書かれたガノーの原著が日本に与えた影響は、大学南校、東京外国語学校、札幌農学校等で認められる。例えば、大学南校では、明治3年(1870)に示された課業一覧の窮理の欄に「英 カッケンボス」と並んで「仏 ガノー」があげられている。東京外国語学校(東京外国語大学の前身)では、フランス人教師エスナールが、「小ガノー」に載せてある実験を実際にやって見せている。生徒たちは「生まれて初めて見る物理学の実験に多大な興味を感じ」、中には、この実験を見て「理科的の学問を自分の一生の専門にしたいと考える」者もいたという。

- ◆ 当館は本書を5冊(1857年版1冊、1866年版3冊、刊行年不明1冊)所蔵している。

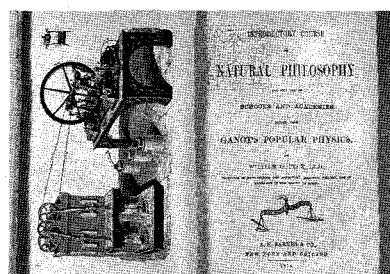
58	Introductory Course of Natural Philosophy for the Use of Schools and Academies		
	G420-9	1874	A.Ganot原著 Willam G.Peck英訳
ガノー著“Cours de Physique”(「小ガノー」)の英訳版。大ガノー同様、明治初期の物理教育に広く用いられた。			

- ◆ 本書は「The National Series of Standard Texts in the Sciences」という、科学の教科書シリーズの1冊として出版された。訳者ペック(Peck)の手になる序文(1860年6月)に「厳格な訳を意図するものではない」とあるように、原著をかなり自由に訳したものである。本書には、原著にはない学習課題がすべてのページの脚注に並べられている。巻末には、「教師たちの要望に答える」として、「機械への物理的原理の応用」という章を設け、歯車や滑車等の原理を説いている。

<参考資料> 「Ganotの物理教科書とその周辺」「同追補」(『科学史研究』II 23,24所収)(SZ40-1)
『科学史技術史事典』(402-36)



57 実験応用物理学・気象学入門講義



58 学校用自然哲学入門課程